

# 平成23年度 土砂災害防止に関する絵画・作文 地方審査 入賞作品集

地方審査会事務局 山形県県土整備部

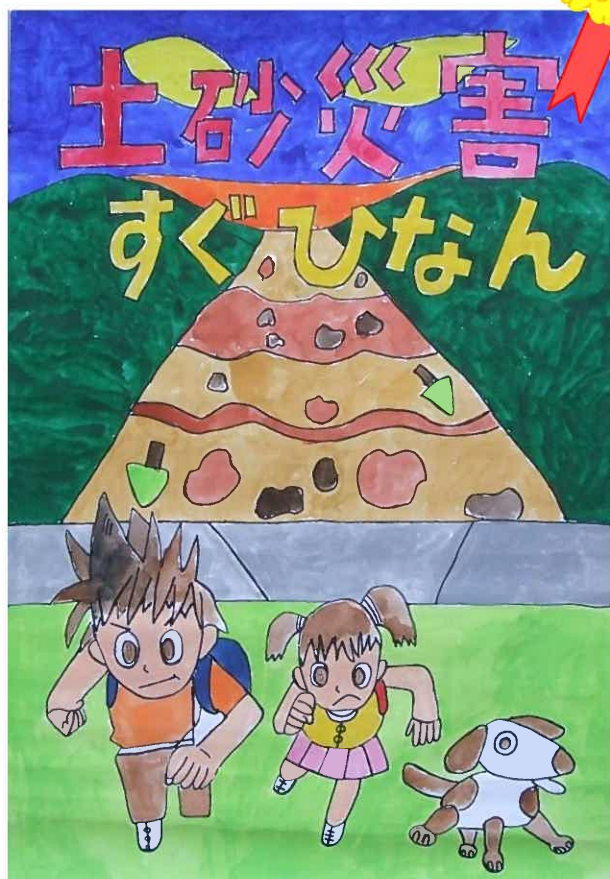
## 絵画部門

### 最優秀賞

(敬称略)

小学生の部

中央審査  
国土交通事務次官賞



小山田 航佑 (おやまだ こうすけ)  
河北町立溝延小学校 4年

中学生の部

中央審査  
国土交通事務次官賞



小山田 圭佑 (おやまだ けいすけ)  
河北町立河北中学校 3年

# 優秀賞

(敬称略)

## 小学生の部



田中 都恵 (たなか さとえ)  
朝日町立宮宿小学校 4年



成田 迅人 (なりた はやと)  
酒田市立富士見小学校 4年



甲州 涼平 (こうしゅう りょうへい)  
新庄市立日新小学校 5年



柴田 大雅 (しばた たいが)  
東根市立東根小学校 6年



浅沼 桃佳 (あさぬま ももか)  
新庄市立日新小学校 6年



齋藤 優 (さいとう ゆたか)  
川西町立吉島小学校 6年

# 優秀賞

(敬称略)



沼澤 彩音 (ぬまざわ あやね)  
新庄市立日新小学校 6年



伊藤 カンナ (いとう かなな)  
新庄市立日新小学校 6年

## 中学生の部



今野 美香 (こんの みか)  
山形市立第十中学校 1年



安西 倭佑 (あんざい こうすけ)  
山形市立第十中学校 3年



菊地 謙耶 (きくち けんや)  
高畠町立第一中学校 3年

# 佳作

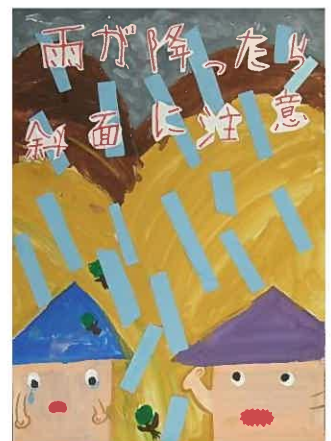
## 小学生の部



小野 貫太郎 (おののかんたろう)  
大蔵村立大蔵小学校 三年



佐藤 将 (さとう まさし)  
戸沢村立古口小学校 三年



大類 奏 (おおいそ)   
山形市立第十小学校 四年

# 佳作

(敬称略)



高橋 伶奈 (たかはし れいな)  
天童市立津山小学校 四年



横山 愛莉 (よこやま あいり)  
米沢市立三沢東部小学校 4年



中野 有那 (なかの ゆうな)  
天童市立蔵増小学校 6年



加藤 瑠和 (かとう るか)  
東根市立東根小学校 6年



児玉 瑞樹 (こだま みずき)  
東根市立東根小学校 6年



笹木 咲里 (ささき さり)  
川西町立吉島小学校 6年

## 中学生の部



庄司 大悟 (しょうじ だいご)  
上市市立南中学校 一年



高橋 未来 (たかはし みく)  
高島町立第一中学校 一年



堀江 美唯 (ほりえ みゆ)  
高島町立第一中学校 一年



伊藤 依里己 (いとう えりみ)  
山形市立第十中学校 二年



高橋 京子 (たかはし きょうこ)  
山形市立第十中学校 三年



金田 奈々 (かねだ なな)  
上市市立南中学校 三年

## 作文部門

(敬称略)

## 最優秀賞

大滝 さくら (おおたき さくら) 鶴岡市立朝陽第二小学校 3年

中央審査  
国土交通事務次官賞

## 『土砂崩れについて感じたこと』

七月三十日の朝、テレビを見ようと思ってスイッチをおしたけれどテレビがつかみませんでした。電気もつかみませんでした。お母さんと、「どうしたのだろう。」と話していたら、おじさんが、帰って来て、大雨で土しゃくずれがおきて、道ろがふさがり通れなくなったこととてい電していることを教えてくれました。

二十七日の夕方からずっと雨がふりつづいていて、近くの川を見たら、コーヒー牛にゆうの色になっていました。家のまどから川の水が見えました。親せきのおじさんも「七十年も生きてきたけれどこんなことは一度もなかった。」と言っていました。それを聞いてとてもおどろきました。

川には大きな木がまるごと一本、ねっこごとぬかれてながされて来ていました。たくさんの木や土しゃがダム在所に集って水がせきとめられていました。道ろにも木や土しゃがあふれていました。大きな土のうがつまれてショベルカーで木やどろをとりのぞいていました。九時間くらいしてやっと、半分ほどとりのぞかれ車が通れるようになりました。田んぼにも木のねっこやじゃりがながれこんでいねがたおれていました。田んぼの土手もくずれていました。山もあちらこちらくずれ落ちて、茶色にはげおちていました。買い物へ出かけて、帰る時に見たら、新しい場所がまたくずれていました。車もどろだらけになっていました。家にどろ水が入った人が家の外にせんたくきやいろいろなどうぐを出してそうじをしていました。川の近くのりよ館の一階に川の水が入って、つぎの日に見たら、はしらしかなくなっていました。

大雨のせいで水道の水もにごりきゅう水車がきました。やかんやなべに水をもらいました。テレビがないと、今どうなっているか分かりませんでした。いつ、ふっきゅうするのかわからずふあんになりました。電気が夜になるまえに使えるようになってよかったです。

ふだん、あたりまえのことがなくなると大へんなことがわかりました。ふっきゅうのため、休まずにはたらいてくれた人に感じしたいです。

## 優秀賞

鈴木 拓優 (すずき ひろまさ)

長井市立豊田小学校 5年

## 『土しゃさいがい』

朝六時、ぼくは、わくわくした気持ちで目が覚めた。るんると二階のぼくの部屋から階段をかけ下りた。すると、父がテレビのニュースをけわしい顔で見ていた。

「大変なことになっているぞ。」

と教えてくれた。テレビを見ると、川の水が茶色くにごって、水かさが増し、堤防がこわれそうになっていた。新がた県の五十嵐川の堤防が百五十メートルにわたってこわれているニュースだった。

ぼくと母は、七月三十日から、普通電車を乗りついで、ゆっくりのんびり電車の旅をしながら大阪へ行く予定だった。

家の近くの今泉駅から米坂線で坂町駅へ行き、羽えつ本線、信えつ本線、北陸本線、湖西線、東海道本線を乗りついで、大阪へ行く計画を立てていた。その前の春休みも、お正月から計画を立てて、同じルートで行こうと楽しみにしていたが、東日本大しん災のため、旅行どころではなくなってしまった。本当に楽しみにしていた。でも、被災した人のことや、重油がなくて運行できない列車や、余しんのことや、いろいろと考えると止めるしかなかった。

「またいつか、行けるようになるといいね。」と母が言った。

六月になって日本がだんだん少しずつ復興し、活気づいてきた。ぼくは、夏休みに大阪へ行く計画を立てた。春休みと同じルートを使って行くことを、ずっとずっと楽しみにしていた。ところが、朝のニュースを見て、行けなくなるかもしれないと感じた。母が、インターネットで列車の運行状況を調べると、米坂線、羽越本線、信越本線がいずれも、大雨のため運休になっていた。

ニュースでは、五十嵐川、信濃川、阿賀野川等の様子が映し出されていた。とても心が痛んだ。茶色くにごった多量の水。河川じきが全く見えず、太い切り株や枝が川に流され、川にかかる橋がこわれそうになっていた。堤防がこわれたところでは、自動車整備工場からもれ出した油が道路に浮いていた。油のもれないための設び自体が水につかり、使えなかったのだと社長さんが言っていた。電車が運休になる理由は、ニュースを見てわかった。

ぼくらの住む町には、完成したばかりの長井ダムがある。完成するまで、何度も見学に行った。ダムの堤体の中を歩いた。ダムの底になっている所も歩いた。ダムの説明をしている人が百年に一度の豪雨でもこわれなれないと言っていた。

あの川の上流に、ダムはあるのだろうか。百年に一度の豪雨でもたえられるダム。想定外を想定した雨量にもたえられるダム。自然環境に優しいダム。みんなに親しまれ、自然と共生できるダム。そんなダムが、あの川の上流にもあるのだろうか。そんなダムがあったなら、堤防がけっかいしたり、橋が流されたりしなかったのではないかな。そう思いながらテレビを見ていた。ひなんしている人もたくさんいた。

何年前の集中豪雨でも新がた県は大きな被害を受けた。その教訓を生かして危険な時にひなん情報を流すために一人ぐらしの家やお年よりの方の家に、防災無線が配られていたし、消防署の方がお年よりがひなんできるように手伝っていた。父が言ったとおり、大変なことになっていた。旅行気分ではなかった。

自然の力は大きい。人間が考える以上にパワーがある。災害が起こった教訓を生かして、同じ災害が起こらないようにしなければならぬ。

ぼくが楽しみにしていた旅行は、また、いつか行けるだろう。

# 佳作

長谷部 将来 (はせべ まさき)  
長井市立豊田小学校 6年

## 『土砂災害をなくそう』

「ドドドドドドド。」

テレビから音が聞こえてきました。土砂がくずれ落ちていく音をニュースで流してくれていました。話には聞いていましたが、こんなことが本当に日本で起きているなんて信じたくなかったです。ほくは、こんなふうにはなってほしくないと思って、どうすれば防ぐことができるのか考えてみることにしました。

土砂災害は、どのようにして起きてしまうのでしょうか。

土砂災害は、雨が降り、地面がやわらかくなることで起こるのだそうです。更に、雨を降らせる雲は、水が蒸発してできます。地球温暖化で暑くなるということは、雲のできやすい環境をつくってしまっていることにつながっていました。つまり、地球温暖化を防ぐことは、同時に土砂災害を防ぐことにもつながっていくのだそうです。

そこで、地球温暖化について調べてみました。地球温暖化は、工場から出るけむり、車から出る排気ガスなどが原因で酸性雨も降らせてしまっていました。この酸性雨が山に降ってしまうと、木がかれてしまうのだそうです。木がかれると木の根がなくなります。木の根がなくなると、土砂くずれが起こりやすくなってしまふ、とつながっていくのでした。

地球温暖化を防ぐ取り組みは、勝手に物を燃やさないなど、様々なことが行われています。土砂災害を防ぐ取り組みは、どんなことを考えたらいいのでしょうか。

ほくの考えた方法は、木を植える活動を盛んにする方法です。木があれば、木の根がしっかりと土をキャッチしてくれます。だから、くずれにくくなるのです。

テレビでは、石を使ってブロックをつくっているところを紹介していました。ブロックのある地域の方は、

「くずれないと思うと、安心して仕事ができるんだよ。」

と言っていました。山の多い地方や川の近くに多くつくられると、みんなが安心して住めるいい場所になると思います。

土砂災害を防ぐ方法が一つではないことがわかってきたような感じがしてうれしかったです。自然を大切にして増やすことは、いろいろなことに役立つのだと改めて知ることができました。また、石などを利用すると安心できる環境をつくり出せるのだということも学びました。みんなで考えて、みんなで実行していけば、土砂災害から自分達の生活を守っていけるのではないかと思います。少しでも考えたことを実行にうつしていくことを大切にしてみたいと思いました。

## 審査風景



## 審査の講評

委嘱審査員 山形市立第二中学校 原田 寧 教頭

ポスターという表現手段のよさは、何と言っても見た瞬間すぐに何らかの情報やメッセージが脳裏に入ってくることにあります。よいポスターには、描かれた物や形や色彩の構成が発する感覚と文案（コピー）が呼び起こす感情がミックスされて、見る人にテーマとなるメッセージをグッと訴えかけます。

この土砂災害防止ポスターも、様々な場面をイメージして、丁寧に制作し、コピーやレタリングにも工夫がこらした作品が多くありました。

その中でも、最優秀になった小山田圭佑さんの作品は、火山の爆発、大雨など土砂災害が起こる要因を画面に巧みに構成し、土砂崩れや川の氾濫災害の恐さをキャラクター化して表現し、コピーにも十分に考慮しており、見事な完成ぶりと言えます。今後も個性的で創造的なポスターが中学生の手で表現されることを期待しています。

委嘱審査員 山形市立滝山小学校 渡邊 斉 教頭

「土砂災害防止」。簡単そうですが、テーマを具体的な絵や文章に表すのは難しいものです。応募された作品からも、苦心の作であることが感じられました。

絵画作品では、「土砂災害正しい情報素早い避難」「人と自然が創る安心・安全な社会」「気をつけよう！土砂災害」などのキャッチコピーが絵と共に効果的にデザインされ表現されていることに感心しました。また、作文では、「新がたの大水がいを体けんして」「教訓を生かして」など、自分の体験を通して感じたこと、考えたことが表現され、心に響いてきました。

自分の思いを、色や形、文章で効果的に伝えるためには、「応募のポイント」「良いテーマ」「表現のコツ」をしっかりと押さえて、構想を練ることが大切です。県審査の後に、中央審査につながる作品募集です。より多くの皆さんが挑戦してくれることを期待しています。

## 応募状況

### <ご応募いただいた学校>

(敬称略、順不同)

小 学 校	
山形市立第十小学校	真室川町立真室川小学校
天童市立津山小学校	大蔵村立大蔵小学校
天童市立山口小学校	戸沢村立古口小学校
天童市立蔵増小学校	米沢市立三沢東部小学校
河北町立溝延小学校	川西町立吉島小学校
朝日町立西五百川小学校	長井市立豊田小学校
朝日町立宮宿小学校	白鷹町立鷹山小学校
東根市立東根小学校	白鷹町立荒砥小学校
東根市立東根中部小学校	鶴岡市立朝陽第二小学校
東根市立大森小学校	鶴岡市立朝陽第六小学校
新庄市立泉田小学校	鶴岡市立大網小学校
新庄市立本合海小学校	鶴岡市立朝日小学校
新庄市立日新小学校	酒田市立富士見小学校

中 学 校
山形市立第十中学校
上山市立南中学校
河北町立河北中学校
高島町立第一中学校
白鷹町立西中学校

	応募学校数	絵 画	作 文
小 学 校	26	60	5
中 学 校	5	22	0
計	31	82	5

たくさんのご応募  
ありがとうございました！

